

「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成30年2月1日 (木)発行

目次

- 1 農林水産部長年頭あいさつ
- 2 会津農林事務所の取組紹介
- 3 会津農林事務所からのお知らせ



「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』 新生運動」会津地方かわら版について

会津地方推進本部では、新生ふくしまの『食』と『ふるさと』の実現に向け、農林業者、県民、関係機関・団体が一体となり、様々な運動を展開しています。会津地方の農林業者の取組や、各部・所の取組、各種研修・イベント等の情報を発信するため、会津地方かわら版を発行しています。



農林水産部長年頭あいさつ

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、富岡町や飯館村で本格的な米づくりが7年ぶりに再開されるとともに、沿岸漁業において、海苔養殖や魚市場の「セリ」が再開されるなど、原発事故からの復興に向けた「歩み」が確実に進んだ一年でありました。

また、将来の担い手として期待される新規就農者が平成27年から3年連続で200名を超え、桃や梨など農産物の輸出货量が過去最高の実績となるなど、本県農業の未来に明るい希望を実感しております。

そこで、復興・創生期間の折り返しとなる平成30年度は、これまでの成果と復興・創生期間後のステージの両方を見据えながら、『流通・販売の強化』、『生産活動の拡大』、『生産基盤の整備』の3本を柱として、本県農林水産業の再生と成長産業化に向けた取組をしっかりと進めていく考えです。

平成30年1月16日



佐竹 浩 部長



会津農林事務所の取組紹介

〇あいづ“まるごと”ネット第2回交流会を開催しました

地域の6次化を推進する取組の一環として、11月29日(水)に今年度第2回目の“まるごと”ネット交流会を、道の駅あいづ 湯川・会津坂下にて開催しました。

第1部では株式会社 GNS の常務取締役・廣田拓也氏は「売上げる3つのデザイン」をテーマとした講演会において、商品づくりは6W1Hを考えて実践することなどをエネルギーに話され、会場から大きな拍手を得ました。

第2部で西会津高校の永井富美子教諭により生徒が取り組んだ車麩ラスクの開発事例の紹介を頂きました。



廣田 拓也氏による講演の様子

続く第3部は会津、南会津管内より参加した7事業者が出品した6次化商品に対する求評会・試食会を開催し、「喜多方ラーメン」や「きゅうりの佃煮」「さるなしジャム」などを参加者が試食しました。事業者・参加者間で活発な意見交換が行われ、商談に発展した事業者もいました。

総合アドバイザーからの講評においては、時に厳しい指摘がありながらも、笑いを交えた良い雰囲気の中、自身の商品について数多くの質問をされ、真剣に考える事業者の姿があり、有意義な時間となりました。

6次化商品に関わる方、興味を持つ方など約80人の参加者からは、「生産者と直接話が出来て良かった」「ネットでは得られない情報を知ることができた」「6次化の取組の基本的な部分を学ぶことができた」等の声を頂き、好評のうちに交流会を終えることができました。

【企画部】



試食会の様子



車麩ラスクと永井教諭



総合アドバイザー 横田氏と森氏

○6次化商品づくり検討会議を開催しました。



6次化商品づくり支援の一環として、「会津地方6次化商品づくり検討会議」を12月15日(金)、会津若松合同庁舎にて行いました。会津管内より10事業者が参加し、プレゼンテーションおよび商品の試食会の後、「商品づくりアドバイザー」が各商品について講評を行いました。商品の味や、売る現場目線での商品づくりアドバイス、パッケージへの提案意見などが活発に取り交わされ、参加した事業者からは、意見を参考にして商品づくりに活かしたいとする熱意が感じられました。

今年度最後の事業として、3月11日(日)に、道の駅あいづ湯川・会津坂下においてテストマーケティングを行います。事業者の方に参加を頂き、商品を実際のお客様に対面販売するものです。

今後もより良い、売れる6次化商品づくり支援に取り組んでいきます。



【企画部】



事業者によるプレゼンテーション



商品試食会の様子

2018年3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27				

○会津管内において全国植樹祭木製地球儀の巡回展示を実施しました



昨年10月に会津管内での巡回展示をスタートした全国植樹祭のシンボルである木製地球儀が管内での巡回を終え、南会津管内へ引き継がれました。

この「木製地球儀」は、21世紀最初の全国植樹祭である「第52回全国植樹祭やまなし2001」の際に、新たな歴史を築いていく象徴として作成されたもので、本年6月10日に開催する「第69回全国植樹祭ふくしま2018」に向けて県内全市町村で巡回展示を行っているところです。

天栄村から引き継いだ木製地球儀は、会津若松市より展示が始まり、その後、同市に避難している大熊町を含む全14市町村を巡回し、昨年12月に南会津町へ手渡されました。

管内巡回中には、全国植樹祭に関心を持った子供たちが見受けられたり、昭和45年に猪苗代町で開催された同植樹祭に参加した方からの当時を懐かしむ声などがありました。

私たち福島県民は、全国植樹祭を本県の森林再生の取組の目標とするとともに、国内外からの支援に対する感謝の気持ちを広く発信する大会として、県民一丸となって取り組みます。

【森林林業部】



木製地球儀が会津若松市に引き継がれる様子



○会津美里町産のくさそてつ(こごみ)(野生)の出荷制限が解除されました

会津美里町産のくさそてつ(こごみ)(野生)(以下、「野生のこごみ」という)については、平成26年4月に国から出荷制限の指示がなされていましたが、これまでの検査の結果、放射性物質濃度が安定して低水準であることが確認されたことから、平成29年9月11日付けで出荷制限が解除されました。

出荷制限解除に向け、県では会津美里町と連携しながら、平成27年から28年の2年間、野生のこごみのモニタリング検査を実施しました。左下の写真は職員一丸となり、検体の調製・検査を行うようすです。検査の結果、放射性物質が安定して低水準であることを確認したことから、平成29年には60点を採取し、詳細検査を実施しました。

3年間にわたる検査の結果、基準値(100Bq/kg)を超えるものは検出されず、平均値で8.4Bq/kg となったことから、出荷制限が解除されるに至りました。



今後、春の山菜シーズンを迎え、実に4年ぶりの出荷再開となる野生のこごみですが、引き続き安全性を確保するため、入荷先(採取山林)や販売先等の生産者情報を記録した生産者台帳の作成・保管及び出荷前のモニタリング検査に取り組む必要があります。

市町村をはじめ関係者の皆様には、生産者情報の把握と県への提供、モニタリング検査の実施について、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

【森林林業部】



○ふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」収穫祭を実施しました



12月1日(金)、会津美里町立新鶴小学校の小学5年生児童34名が本事業の活動を通じてお世話になった方々を招待し、収穫祭を実施しました。

児童たちは、一年間の活動の中で田植えから稲刈りまでの体験や水路内の生き物調査などを実施し、農業と農村環境、そして食と命の大切さを学びました。

収穫祭の献立は、児童が春に田植えを行い、10月に収穫したお米によるおにぎりと会津産のりんごや柿などの地元農産物を入れたパフェとし、会津美里町新鶴地区の食生活推進委員の方々のご協力を得て調理を行いました。(右写真)

また、児童たちは、1つ1つに感謝の気持ちを込めて、丁寧なおにぎりを作り、活動に協力してくださった方々に振る舞いました。

参加した児童からは「農家の方が苦勞してお米を作っているのが分かり、一粒一粒大事に食べようと思いました。」との声や「私の夢は世界一美味しい野菜を作ることなので、この一年は将来の勉強となりました。」などの感想が出され、今回の田んぼの学校の活動を通して、食と農業に対する認識を深めてもらうことが出来たようです。

【農村整備部】



○JA 会津よつばいいで地区

夏秋きゅうり部会「販売金額 5 億円達成記念大会」が開催されました



本年度、夏秋きゅうりにおいてJA会津よつば「いいで地区」のみで、販売金額過去最高の5億円を達成したことから、1月11日(木)に記念大会が開催されました。大会にはきゅうり生産者、JAの役職員のほか取引先各市場、種苗会社、資材メーカー等も駆けつけ5億円達成を祝いました。

平成10年の旧JA会津いいで発足時の夏秋きゅうりは、91戸、891a、1億8千8百万円の販売金額でありましたが、本年度には、128戸、1,564a、5億9百万円にまで順調に産地拡大がなされてきました。

特に、積極的な施設化推進により、現在では県内有数の高い施設化率(78%)を誇り、長期栽培により高品質・多収穫栽培を実現しています(平均単収 11.5t/10a)。

市場関係者からは、出荷されたきゅうりは他産地と比べても品質は高く、9月～11月までまとまった量が期待できるなどの評価を受けました。生産者は市場からの高い評価を得て、来年度は販売金額6億円を達成したいと高い意欲を示していました。

【喜多方農業普及所】



JA会津よつば代表理事専務の挨拶



優良生産者の表彰

○奥会津エゴマセミナーを開催しました

奥会津地域の重要な地域特産品であるエゴマ栽培の作業の機械化等による更なる生産振興を図るため、12月15日(金)に金山町開発センターにて、会津坂下農業普及所主催により、「奥会津エゴマセミナー」を開催しました。

セミナーでは、郡山女子大学大学院 非常勤講師 農学博士 広井 勝様より、「エゴマの機能性成分と効果的な利用方法について」と題しまして御講演いただき、エゴマの有用性について理解を深めるとともに、田村市、JA 夢みなみ、(株)南東北クボタより事例発表いただき、他地域の取組を参考としながら奥会津地域の今後のエゴマ生産について検討しました。



奥会津エゴマセミナーの様子

また、会津坂下農業普及所からも、「奥会津地域におけるエゴマ栽培の課題と今後の展開について」と題しまして、これからの奥会津地域のエゴマ栽培のあり方について提案させていただきました。

奥会津地域内外から約60名の出席があり、エゴマ栽培作業の機械化に向けた課題や今後の販売などについて活発な意見交換が行われました。

今後も奥会津地域でのエゴマ生産振興に向けて取り組んでまいります。

【会津坂下農業普及所】



会津農林事務所からのお知らせ

会津地方の6次化 **新** 商品のテスト販売を行います！！

道の駅あいづ 湯川・会津坂下において、新しく販売が予定されている会津の地域資源を活かした6次化商品のテスト販売を実施しますので、是非御来場ください♪

日時 平成30年3月11日(日) 11:00～(無くなり次第終了)

場所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下 建物内(人の広場)
河沼郡湯川村大字佐野目字五丁ノ目78番地1

参加事業数 8社程度

・主な6次化商品(予定)

「豆・まめ・ポーロ」、「ローズウォーター」、「まこもめしの素」、
「会津みしらず柿 柿そのまんま」など。

・その他

今後の商品づくりに役立てるため、アンケートを実施しますので御協力をお願いします。



皆様のお声を是非お聞かせください！

【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局

(福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)

TEL (0242)29-5369 FAX (0242)29-5389

E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.